

### 3 . 永遠の地 ( マラナウ )

ミンダナオの誇りと気品のあるマラナウの人びとは、自分たちが古代エジプト人の子孫だと信じていて、エジプト人は永遠の地の子孫と信じられていました。永遠なる者たちは、空の彼らの王国に住み、「デロル・ディン」とか「永遠の地」とか呼ばれていました。

これらは、そんな早期の先祖たちの物語です。

むかし、賢く強い、エジプトの支配者マリコル・ミスラと彼の美しい女王には、ケサノル・バサリという名前のかわいい男の赤ちゃんがいました。彼の両親は、彼らの若い息子を誇りに思い、いつの日にか、彼の父である王国の支配者のように、賢く、強く育つと期待をかけていました。

一方で、永遠の地では、天国の王、マリコル・イアンは、天国の王女であるシタナスリという名の生まれたばかりの赤ちゃんのことを誇りに思う父親でした。

ある日、広い天の王国を歩いている間に、王様は地上を見下ろし、幼児用の寝台に安心して横たわっているかわいいケサノル王子を見ました。王様は、その男の子の天使のような振る舞いに感動し、彼を地上ではなく、天国に住ませようと決断しました。彼はそう決めたのです。そうすればケサノル・ベサリは、いつの日にか、彼のかわいい娘、シタナスリの夫になることでしょう。

数日後、夜遅く、大きな鳥がデロル・ディンの雲から、天国の王の命令を受けて、降りてきました。それは大きな羽を羽ばたかせ、エジプトの地に滑空しました。それは、長く曲がりくねったナイル川の道に沿って行きました。それは力のある王マリコルの宮殿へとつながっていました。

大きな鳥はその翼を収めて、王子ケサノル・ベサリの部屋へとつながる、すばらしい宮殿の大きく開いた窓に滑空して行きました。そこで、大きな鳥は、寝具に包まれて寝ている王子を包んで、それをくちばしにくわえて、そのかわいい乗り物で宮殿から飛んで行きました。

鳥は羽を広げて、寝ている王子を慎重に空高く、雲を抜けて天の王国へ運びました。そこでは、幸せそうな王様が待っていました。

その日以降、かわいい若者の王子ケサノル・ベサリは、天の王国で幸せに育ちました。王マリコ

ル・イアンは、彼の重要なふたりの天使にその小さな少年の警護と保護を命じました。王子は幸せな子どもで、すぐに強く賢い男に成長しました。

時が来ると、天国の王は彼の希望をかなえて、彼の娘シタナスリがすてきなその王子と結婚することを許可しました。そのカップルは一緒に大変幸せでした。その美しい王女が、同様に美しい赤ちゃんの娘、ポトリ・ソグラ、あるいは王女ソグラを産むのに、そんなに時間はかかりませんでした。

エジプトの王子と彼の永遠の妻は、彼らの娘と天の王国で幸せな生活をしました。しばしば、王子と王女は、下の人間の地を訪問し、地上のすばらし景色を見ていましたが、彼らの旅行にはいつも美しい若い娘を連れてゆきました。

彼らは、王マリコル・イアンが与えた、魔法の空飛ぶ毛布に乗って、世界旅行をしました。その毛布は純粋に揺らく絹で出来ていて、銀と金のより糸で織り合わされたものでした。

ある日、王子と王女と彼らの幼い娘がミンダナオの美しい地の上を飛んでいる時、ものすごい風と激しい雨をともなった、すさまじい台風がどこからともなくやってきたのです。王子は、空飛ぶ毛布を操縦するのが困難であることがわかりました。それは強い風に揺り動かされ、打ち叩かれていました。

王子がねじれたり、引っくり返ったりしている毛布を操縦するのにもがいている間に、彼の娘である若い王女ソグラは毛布から落ちて、風と雨の中を、下の地に突入して行きました。

絶望的な王子ケサノイ・ベサリと彼の妻王女シタナスリは、ひどい風と雨の中で、見失った彼らの娘を、必死になって捜しました。しかし、彼らにはどこにも見つけることができず、ついには、彼らの愛した一番大切な娘は死んだのだ、とあって、悲嘆にくれて、天の王国へ帰ってゆきました。

激しい嵐がおさまったので、タングバ・ア・ルグンという名前の偉大な狩人がスールー海の近くの大きな森をぬけて、家に帰っていました。狩人は、彼の背中に大きな鹿の死体を背負っていました。それは彼が殺したもので、それによって、彼は何日も養われることでしょう。

しかし、彼が湿った森を歩いて歩いていると、タングバ・ア・ルグンは、びっくりするような発見をしました。高いシダのベッドの中に、気を失っ

### フィリピンの神話と伝説

て横たわっていましたが、それは彼女の落下の衝撃を緩和したのですが、美しい王女ソグラが横たわっていました。彼女は、彼が今まで生きてきた生涯の中で一番魅力的に見える少女でした。

彼は慎重に、彼の大きくたくましい腕で抱きかかえ、森の中の彼の家に連れて帰りました。

何日も、何週間も、何ヶ月も、優しいタングバ・ア・ルグンは、その美しい王女が完全に健康を回復するまで看護し、彼女に鹿の肉、野菜、薬草、そして新鮮な山羊の乳を与えました。王女は、その狩人が親切に、彼女の世話をしてくれたことに大変感謝し、彼と恋に落ちないではいられませんでした。

すぐに彼らはミンダナオの森の快適な彼らの家で夫と妻として生活し、共に大変幸せに暮らしました。この偉大な狩人と半エジプト人と半永遠の王女の愛の結びつきから、ラワラン・サ・ソログという名の娘が生まれました。その美しいラワラン・サ・ソログが美しい女性に成長すると、彼女は二人のすばらしい子どもの母になりました。かわいい息子は名前をバントゥガン、美しい娘は名前をイナランといいました。

バントゥガンとイナランがまだ幼い頃のある夜、彼らはミンダナオの彼らの大きな宮殿のような大邸宅の別々の寝室で安らかに眠っていました。ところが突然月食が起こって、地上は全くの暗闇になりました。すると激しい嵐が地上に怒りを引き起こし、強い風と怒りの雨がその進路のすべてのものを破壊しました。その嵐はラワラン・サ・ソログの大邸宅を襲い、それによって建物は割かれてしまいました。イナランの寝ていた寝室は、中心の建物から引き離され、強い嵐によって空中に投げ出されてしまいました。

激しい嵐は、頼りないイナランの小さな寝室をものすごい風に乗せて、幾日も幾夜も運んで、彼女の家から遠い、高い空の上に連れて行きました。幼い少女は何日も、彼女の最終的な運命を知らず、激しく泣き続けました。

天国の王、マリコル・イアンが彼の領地を歩いている間に、彼はイナランの寝室が近くの空中で回転しているのを見ました。最初、寝室から少女の泣き声が聞こえるまでは、さほど気にも留めませんでした。王は力強い彼の腕を伸ばして、雲を突き抜けて、その回転している寝室をつかみました。

王が、困惑した、しかし美しい少女を残骸の中に見た時、彼はその子を哀れに思いました。彼は天

使の何人かを呼んで、その幼児の世話をさせました。ある天使が、その少女がイナランという王の孫であることを王に告げると、彼は大変うれしくなって、その子を天国で育てることを決断し、彼の立派な教育を受けさせることにしました。

一方、地上のミンダナオの地では、イナランの兄バントゥガンが立派で力強い兵士に成長していました。彼の長い黒髪が顔を通り抜ける姿は、岩の彫刻のように見えて、彼の勇敢で、伝説的な功績は、その土地の人びとみんなに知られ、賞賛されていました。

バントゥガンはミンダナオの戦場で、多くの強い敵を負かすだけでなく、彼はその地の人々が恐れている多くの動物や怪物を恐れずに倒したりもしたのです。

バントゥガンは、いつも美しい金の盾を持っていました。それは太陽の下で輝き、それは魔法と神秘的な力を持っていました。この強い盾は、敵と戦う時にバントゥガンを守るだけではなく、この兵士を、彼の行きたいところへどこにでも飛んで行ける力を持っていました。

ある日、冒険好きなバントゥガンは彼の空飛ぶ金の盾で雲をついて青空を高く飛んで、デロル・デイン、つまり永遠の地に行きました。

バントゥガンは彼が見つけたその新しい地に魅了され、濃い、暗い森を通して、彼が飲むための水がある清らかな川があるか探しました。

バントゥガンはすぐに輝く川を見つけ、腰をかかめて、水晶のように透き通った水を飲みました。しかし、彼はこの暗い森が、多くの怪獣のような奇怪な生き物たちの家であることを知りませんでした。その生き物たちは、永遠の地の人々にさえも恐れられていました。永遠の地の人々はその林を探検したことはなかったのです。

バントゥガンがきれいな川でのどの渇きを潤している間に、それらの4匹の生き物が木々の中から出て、何も怪しんでいない兵士の背後から忍び寄ってきました。これらの奇怪な生き物たちは、ほとんど森の木の高さと同じくらいの高さでした。それらは人間のよう形をしていましたが、体全体は岩と石でできていました。それらは餌食に忍び寄って、石の剣を持ち上げ、何も怪しんでいないバントゥガンに飛び掛りました。

しかし、間一髪で、バントゥガンは川の水に映った大きな石の生き物を見ました。彼はすぐに剣と

### フィリピンの神話と伝説

盾を取り、振り向いて、彼の背後の忌まわしい生き物に、激しく襲い掛かりました。彼の優れた速さと最高の力強い闘争技術は、すぐに、その恐れられた怪物たちを打ち、それらを小さな、命のない瓦礫の山にしてしまいました。

永遠の地の人々は、森の恐ろしい石の兵士を退治した偉大な英雄としてバントゥガンを迎え、彼の勝利を祝うための大きな宴会を開きました。7日間続いたお祝いの中に、バントゥガンはイナランに会いましたが、彼女は美しい女性に成長していました。

バントゥガンは若いイナランに激しく恋しました。彼女は本当に愛と恵みと美しさをそなえた女性で、彼はそれまで、地上でも天国でもこんな女性を見たことがありませんでした。少しして、彼はイナランが、本当に長い間失っていた彼の妹であることがわかりました。

バントゥガンは、愛するイナランをほっておくことが出来なくて、天国の王様、マリコル・イアンに彼女と結婚させてほしいと頼みました。王様は承諾し、バントゥガンとイナランは結婚しました。彼らは天国で共に幸せに暮らしました。それからしばらくして、イナランは男の子を産み、バラタマイと名づけられました。

バントゥガンとイナランと彼らの息子バラタマイは、注意深く見守るマリコル・イアンのもとで共に暮らしました。王は、与えられた家族で、幸せでした。彼は最も愛する天使を、バラタマイの守護天使に永久に任命しました。

バラタマイはすぐに成長し、強く冒険好きの若者になり、兵士である父の特性を引き継ぎました。彼はいつも地上のミンダナオの地についての乳の語る話を聞いて、その地を訪ねたくなり、父が彼に語ってくれたとおり、美しいところかどうか、見たくくなりました。

ある日、彼は両親に、彼をミンダナオの地に訪問させ、しばらくそこに滞在する許可を求めました。両親は同意し、父の魔法の盾を使うように言いました。そして、バラタマイは地球に飛び降りて行きました。王様のマリコル・イアンが、その少年の出かけたことを聞くと、その少年の安全のことが気になり、相談相手であり、保護者になる、最も賢く、勇敢な天使を遣わしました。

ミンダナオは、父が言葉で表現した以上に美しく、バラタマイがベンバランの美しい島を見つけた時、彼はそこに住むことにしました。勿論、彼の

守護天使も彼の隣りに義務として留まっています。

少しして、バラタマイは賢い長老たちから、彼の両親は、実際兄弟だったこと、彼らは何年も前、彼らが子どもの時の月食の夜以来、長く分かれて暮らしていたことを聞きました。バラタマイは最初彼の両親のことを聞くと悲しみましたが、地上の人間が作った法律は、永遠の地には適合しないことを理解しました。

これらは、ミンダナオの高貴なマラナウの人々の、伝説的な英雄や立派な女性、そして先祖たちのものです。